



パチンコ屋に足を運んだのは来日後まもなく、知人の日本人おじいさんからパチンコで儲けた話を聞いて、好奇心を持って次の日におじいさんと一緒に行った。

しかし、その場に入ったとたん後悔した。百台くらいパチンコ台から出る騒音は物凄く大きく、それはうちのお母さんがかつて働いた国営紡織工場の機械から出た騒音と同じくらいの程度、とても嫌な感じがした。

パチンコ台の前に座っている男女は、殆どタバコを吸っている。タバコの煙が大きな空間に充満し、空気も悪く濁っている。

しかし、皆は慣れた模様、何も気にせず、パチンコ台の画面に夢中になっている。

大当たりになったら、自分の台から大きな音や歌が流れ、台はピカピカと様々な色が点滅し、銀色の玉はどんどん出て来る。

その日はパチンコを試す気がなかったが、おじいさんの車に乗って行ったため、おじいさんは「一回体験してみれば、簡単だよ」と勧めたので、とりあえず一万円を換金してパチンコ台の前に座った。

パチンコのスロットの操作要領をうまく把握できないまま、一回の大当たりもないうちにあっという間に目の前の銀玉がなくなった。帰りたいが、おじいさんは、自分が勝った銀玉を私のパチンコ台に入れたため、無理して続けた。しかし、段々息が苦しくなって、最後は諦めた。

その日、日本人のおじいさんも勝てなかった。パチンコ屋から家に戻った後、なぜパチンコは一部の日本人にそれほど不思議な魔力を持っているのか、まったく理解できなかった。

私にとって、このようなギャンブルゲームは自分の寿命を縮めるだけで何の意味もないもの。一回、大当たりをして喜んでいた日本人おじいさんは、実に毎月の年金の大半をパチンコのために使ったそうだ。パチンコをやっている人は、勝つ人は少なく負ける人が多い。結局、自分の大事なお金、貴重な時間を無駄にしている。

その後、ネットで調べたら、多くパチンコの経営者は在日朝鮮人で、パチンコで稼いだお金は北朝鮮に不正に流れていると言う話を知った。

それが事実かどうか把握できないけど、パチンコに対する嫌悪感がいっそう高まった。

さらに、もっと不思議なことは、日本のテレビ局でパチンコに関する広告、番組が意外と多い。

かつてテレビでパチンコ王選手権の番組を見た記憶がある一方、ある有名なドラマで男女主人公がパチンコ屋に行きデートをする場面も覚えている。世界中の国を見ても、日本のように公然とギャンブルを賛美、提唱している公衆メディアは多くないだろう。

韓国は自国でパチンコを全面禁止したそうだ。しかし在日朝鮮人が経営しているパチンコは日本中のどこでも見られる。まして反韓保守が指摘したとおり、これは在日朝鮮人が日本を弱体化させ、日本人の精神を腐食するための毒薬ではないのか？そのため、私は日本政府がパチンコの全面取り締まりを行うことを望んでいる。

日本のもう一つの不思議な所は、「性」文化が開放的とは言え、意外に家庭重視、伝統な道徳観を持つ一面である。

現在の多くのシナ人若者が想像した日本は、まるでAVの天国、混浴は日本の特徴、何処でも性の文化が溢れている。

しかし、私の見た日本は、シナ人よりかなり保守的だと思う。温泉旅行は何回か行ったけど、混浴なんて見たことがない。

日本人の友人に聞いた所、東北地方のある農村部ではまだ混浴があるが、行く人は殆どお年寄りのお婆さんで、若い女性は入らないそうだ。

さらに、日本のAV、成人雑誌、漫画なども、普通本屋、ビデオ屋、コンビニの一角の人の目から離れた場所に設置するほうが多い。買う人、見る人もなんだが恥ずかしがるような気がする。シナでは一般の住宅街でも、床屋、マッサージ屋などに偽装した風俗営業店があり、この偽装は誰でも知っていることで秘密ではない。

男の人は、シナ国内旅行をすれば何処に行っても、旅館や駅で女の子の写真や電話番号をプリントした名刺サイズのカードをもらえる。

さらに「男不壞、女不愛」(男は悪くないと女に愛されない)「家里紅旗不倒、外面彩旗飄飄」(派生義：家の中の妻も、外の愛人も両方を上手く攫む男は腕凄)という言葉がシナ社会で流行っている。

このような状況をみれば、シナ人の道徳は、ただ紙に書かれた物だけであることが誰でもわかるだろう。

